

### イ 国際的にみて日本では「自分は健康」と考えている人が多い

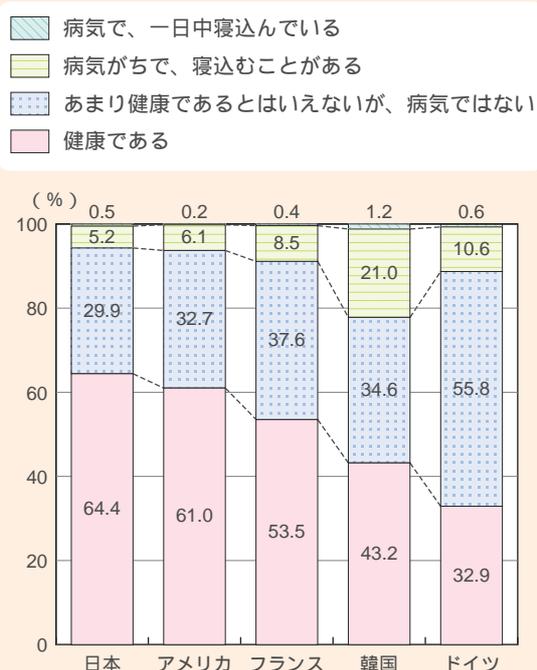
我が国は平均寿命だけでなく、健康寿命も世界で最も長いが（第1章第1節8ページ参照）健康についての高齢者の意識をアメリカ、ドイツ、フランス及び韓国の4カ国と比較してみても、「健康である」と考えている者の割合は、日本が64.4%で最も高い結果となっている。なお、日本に次いで高いのはアメリカ（61.0%）で、以下、フランス（53.5%）、韓国（43.2%）、ドイツ（32.9%）の順となっている（図1-2-28）。

### ウ 国際的にみて高齢者が医療サービスを利用する割合は高い

65歳以上の受療率（高齢者人口10万人当たりの推計患者数の割合）は、平成17（2005）年において、入院が3,639、外来が11,948となっており、他の年齢階級に比べて高い水準であるが、近年は安定的に推移している（図1-2-29）。高齢者の受療率が高い主な傷病をみると、入

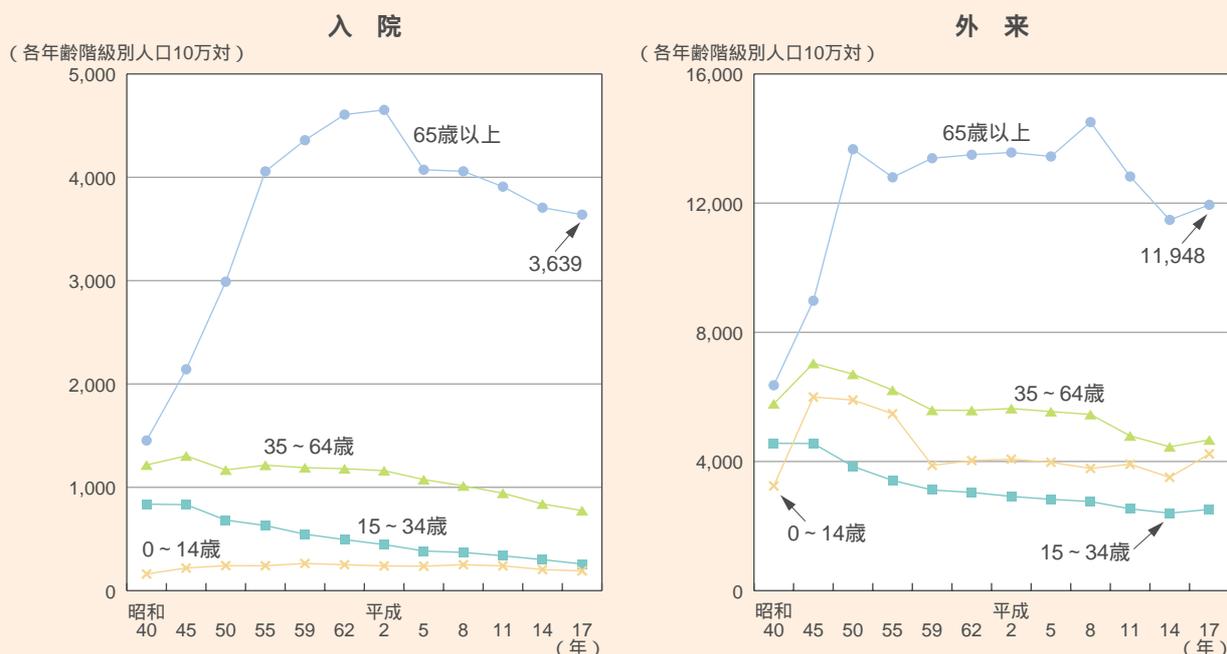
院では、脳血管疾患（男性697、女性847）、悪性新生物（がん）（男性511、女性254）となってい

図1-2-28 60歳以上の高齢者の健康についての意識（国際比較）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）

図1-2-29 年齢階級別にみた受療率の推移



資料：厚生労働省「患者調査」

る。外来では、高血圧性疾患（男性1,426、女性1,981）、脊柱障害（男性1,300、女性1,310）となっている（表1 - 2 - 30）。

高齢者の死因となった疾病をみると、死亡率（高齢者人口10万人当たりに対する死亡者数の割合）は、平成17（2005）年において、悪性新生物（がん）が976.2と最も高く、次いで心疾患585.0、脳血管疾患456.1の順になっており、これ

ら三つの疾病で高齢者の死因の約6割を占めている（図1 - 2 - 31）。

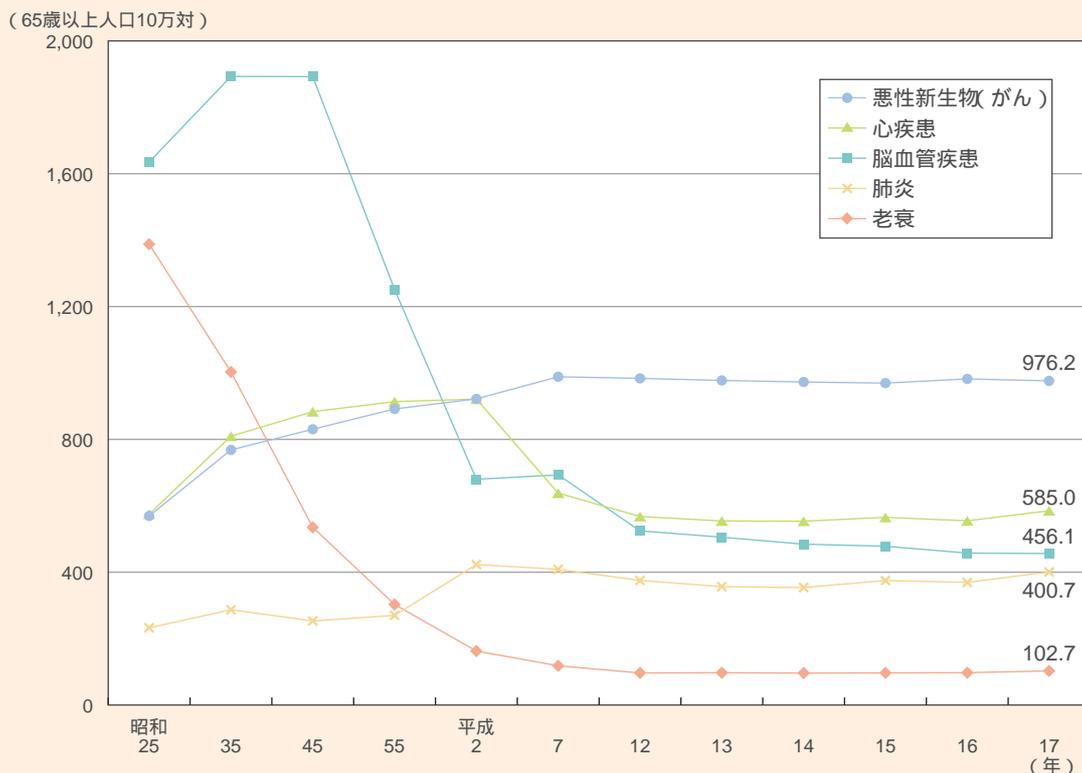
医療サービスを日頃どのくらい利用するかについてアメリカ、ドイツ、フランス及び韓国の4か国と比較すると、日本は「健康である」と考える者は他の国よりも多いものの、医療サービスの利用状況は「ほぼ毎日」から「月に1回くらい」の割合の合計が56.8%と韓国（56.7%）

表1 - 2 - 30 主な傷病別に見た受療率（人口10万対）

|    |                 | 男      |        |        | 女      |        |        |
|----|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|    |                 | 65歳以上  | 65～74歳 | 75歳以上  | 65歳以上  | 65～74歳 | 75歳以上  |
| 入院 | 総数              | 3,476  | 2,456  | 5,042  | 3,759  | 1,816  | 5,748  |
|    | 悪性新生物           | 511    | 433    | 631    | 254    | 209    | 300    |
|    | 高血圧性疾患          | 20     | 8      | 39     | 56     | 10     | 104    |
|    | 心疾患（高血圧性のものを除く） | 179    | 104    | 294    | 210    | 58     | 366    |
|    | 脳血管疾患           | 697    | 413    | 1,133  | 847    | 259    | 1,450  |
| 外来 | 総数              | 11,297 | 10,094 | 13,144 | 12,427 | 11,817 | 13,051 |
|    | 悪性新生物           | 480    | 414    | 581    | 219    | 229    | 209    |
|    | 高血圧性疾患          | 1,426  | 1,240  | 1,713  | 1,981  | 1,631  | 2,339  |
|    | 心疾患（高血圧性のものを除く） | 444    | 328    | 622    | 385    | 244    | 529    |
|    | 脳血管疾患           | 424    | 333    | 563    | 329    | 218    | 444    |
|    | 脊柱障害            | 1,300  | 1,039  | 1,701  | 1,310  | 1,203  | 1,420  |

資料：厚生労働省「患者調査」（平成17年）より作成

図1 - 2 - 31 65歳以上の高齢者の主な死因別死亡率の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

とともに他の国と比較して高くなっており、医療サービスの利用頻度が高くなっている（図1-2-32）

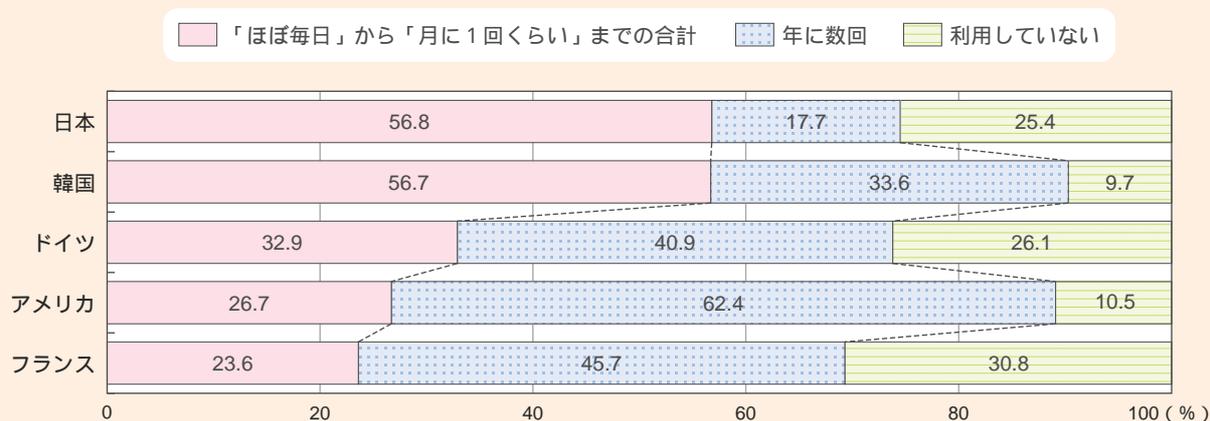
(2) 高齢者の介護

ア 高齢者の要介護者等数は急速に増加しており、特に後期高齢者で割合が高い  
介護保険制度における要介護者又は要支援者

と認定された者（以下「要介護者等」という。）のうち、65歳以上の者の数についてみると、平成17（2005）年度末で417.5万人となっており、12（2000）年度末から170.4万人増加しており、高齢者人口の16.6%を占めている（図1-2-33）

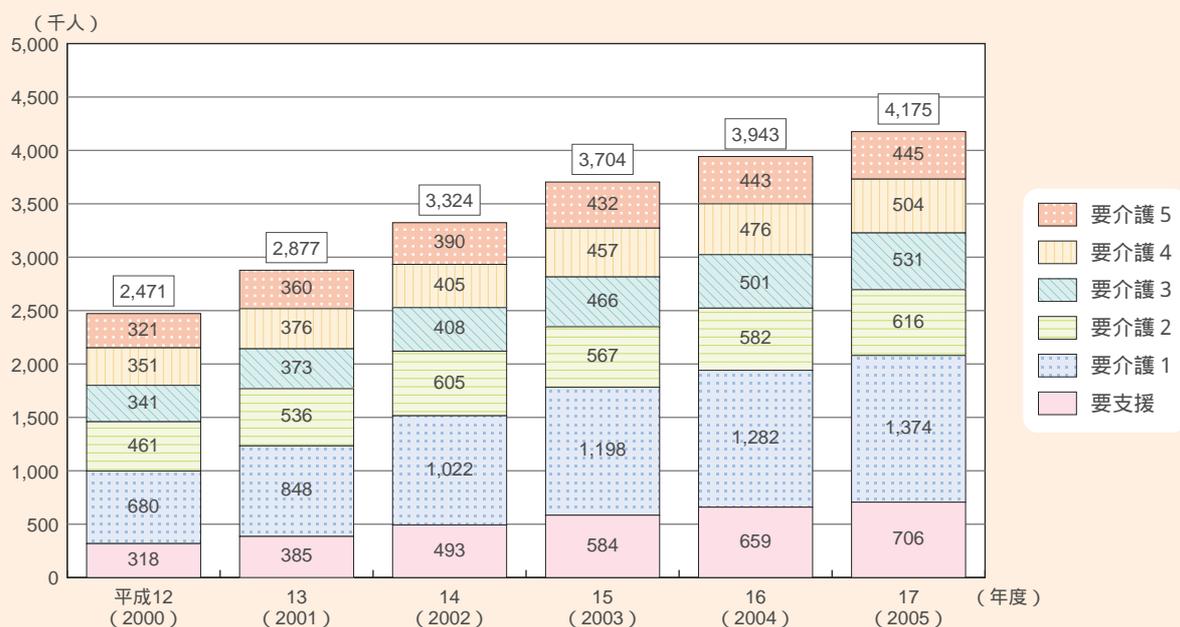
また、前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）について、それぞれ要支援、要介護

図1-2-32 医療サービスの利用状況（国際比較）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）

図1-2-33 第1号被保険者（65歳以上）の要介護度別認定者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」

の認定を受けた者の割合をみると、前期高齢者は要支援の認定を受けた者が0.9%、要介護の認定を受けた者が3.9%であるのに対して、後期高齢者で要支援の認定を受けた者は4.9%、要介護の認定を受けた者は24.7%となっており、後期高齢者になると要介護の認定を受ける者の割合が大きく上昇する（表1-2-34）。

介護保険制度のサービスを受給した65歳以上の被保険者は、平成18年4月審査分で341.9万人となっており、男女比でみると男性が27.8%、女性が72.2%となっている。

**表1-2-34 前期高齢者と後期高齢者の要介護等認定の状況**

単位：千人、（ ）内は%

| 前期高齢者（65～74歳） |              | 後期高齢者（75歳以上） |                 |
|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| 要支援           | 要介護          | 要支援          | 要介護             |
| 126<br>(0.9)  | 556<br>(3.9) | 580<br>(4.9) | 2,914<br>(24.7) |

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（平成17年度）  
総務省「人口推計」（平成18年3月確定値）より算出。

さらに、介護サービスの利用実態をみると、軽度の者は居宅サービスの利用が多い一方、重度（要介護4又は要介護5）の者は施設サービス利用が半数を超えている（表1-2-35）。

要介護者等について、介護が必要になった主な原因についてみると、「脳血管疾患」が25.7%と最も多く、次いで、「高齢による衰弱」16.8%、「骨折・転倒」10.8%、「認知症」10.7%となっている。男性の「脳血管疾患」が41.3%と特に高くなっている（図1-2-36）。

**イ 主に家族（とりわけ女性）が介護者となり、「老老介護」も相当数**

家族の中ではだれに介護を望むのかについてみると、男女とも「配偶者」の割合が最も高いが、女性は「娘」の割合も高くなっている（図1-2-37）。前回調査結果と比較すると、「配偶者」の割合が増加し、「嫁」の割合は減少している。

**表1-2-35 介護保険サービスの利用状況**

**(1) 介護保険サービスの利用状況（介護サービス受給者数）** (単位：千人)

|                      | 総数                 | 要支援等            | 要介護1              | 要介護2            | 要介護3            | 要介護4            | 要介護5            |
|----------------------|--------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 受給者総数<br>(65歳以上の受給者) | 3,418.9<br>(100.0) | 473.0<br>(13.8) | 1,099.7<br>(32.2) | 539.1<br>(15.8) | 477.7<br>(14.0) | 454.4<br>(13.3) | 375.1<br>(11.0) |
| 男                    | 950.2<br>(100.0)   | 105.8<br>(11.1) | 290.1<br>(30.5)   | 174.4<br>(18.4) | 153.4<br>(16.1) | 132.3<br>(13.9) | 94.2<br>(9.9)   |
| 女                    | 2,468.7<br>(100.0) | 367.1<br>(14.9) | 809.6<br>(32.8)   | 364.6<br>(14.8) | 324.4<br>(13.1) | 322.1<br>(13.0) | 280.9<br>(11.4) |

資料：厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成18年4月審査分）」  
(注) ( )内は総数に占める割合（単位：%）

**(2) 要介護度別のサービス利用状況（受給者数）** (単位：千人)

|        | 計                 | 要支援等             | 要介護1              | 要介護2            | 要介護3            | 要介護4            | 要介護5            |
|--------|-------------------|------------------|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 居宅サービス | 2,724.1<br>(77.0) | 475.5<br>(100.0) | 1,068.2<br>(94.1) | 464.9<br>(82.3) | 332.3<br>(66.6) | 230.4<br>(48.8) | 152.8<br>(39.1) |
| 施設サービス | 813.2<br>(23.0)   | -                | 66.4<br>(5.9)     | 100.2<br>(17.7) | 166.5<br>(33.4) | 241.8<br>(51.2) | 238.4<br>(60.9) |

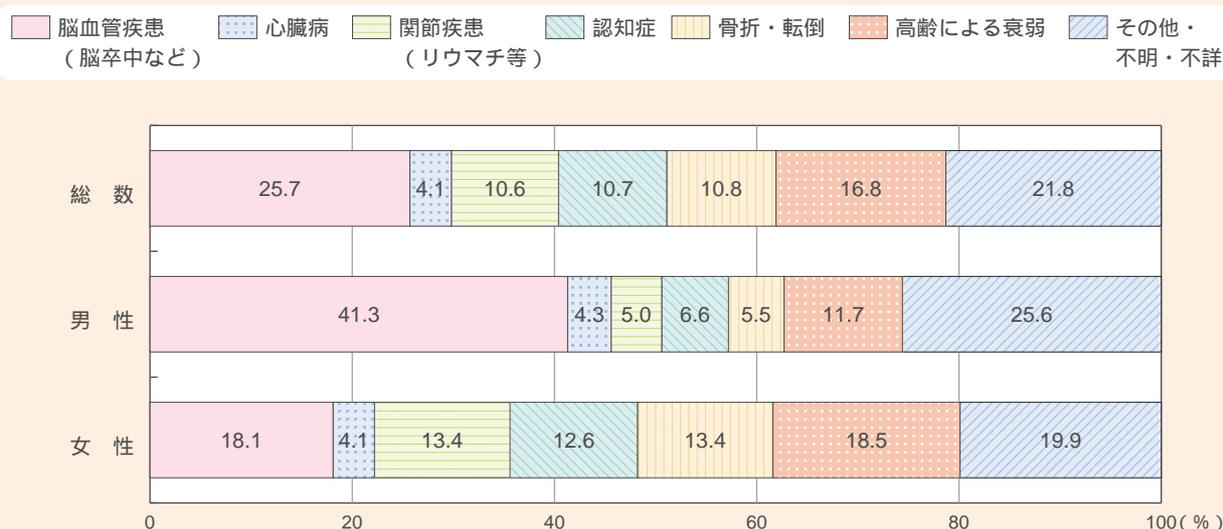
資料：厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成18年4月審査分）」  
(注) ( )内は総数に占める割合（単位：%）

要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、約7割が同居している者が主な介護者となっている。その内訳をみると、妻が16.5%、息子の妻が19.9%、娘が11.2%などとなっており、これらを合計すると49.5%と女性が主な介護者

のほぼ半数を占めている。

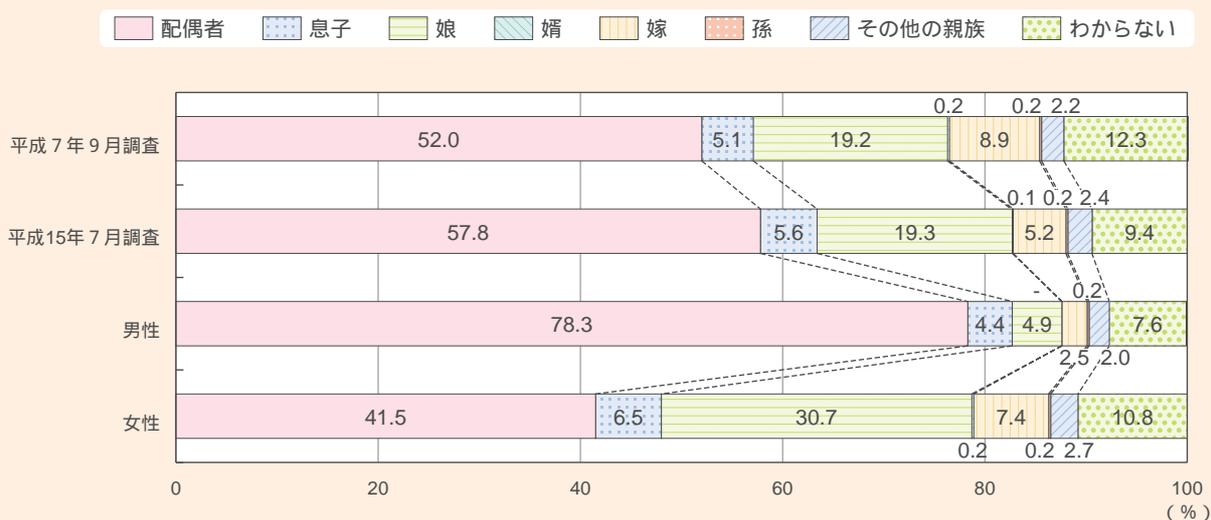
一方で、男性が主な介護者となっている割合は16.6%と少なく、夫(8.2%)と息子(7.6%)はほぼ同じくらいの割合となっているが、娘の夫は0.4%と1%に満たない(図1-2-38)。

図1-2-36 要介護者等の性別にみた介護が必要となった主な原因



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査(平成16年)」

図1-2-37 家族の中ではだれに介護を望むか



資料：内閣府「高齢者介護に関する世論調査(平成15年7月)より作成

(注1)「自宅で介護されるとしたら、どのような形の介護をされたいか」という質問に、「家族だけに介護されたい」、「家族の介護を中心とし、ホームヘルパーなど外部の者も利用したい」、「ホームヘルパーなど外部の者の介護を中心とし、あわせて家族による介護を受けたい」と答えた者を対象として、「その場合、家族の中では、誰に身の回りの世話を頼むか」について更に質問した結果を再集計している。

(注2)「-」は回答者がいないことを示す。